

令和4年12月6日

由仁町議会

議長 熊 林 和 男 様

産業厚生常任委員会

委員長 大 竹 登

産業厚生常任委員会道内行政視察報告書

本委員会は、道内行政視察を次のとおり終了したので、由仁町議会会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 視察事項

- ・石狩東部広域水道事業団での上水道配水状況について
- ・道央廃棄物処理組合の焼却処理施設について

2 期日

令和4年10月17日（月）

3 視察地

千歳市

4 派遣議員

大竹 登・大畠 敏弘・早坂 寿博・加藤 重夫、後藤 篤人
議長 熊林 和男

5 随員職員

議会事務局長、議会事務担当主査

6 視察内容

別紙のとおり（報告書文責 委員長 大竹 登）

視察先	千歳市（石狩東部広域水道企業団千歳川浄水場）
調査事項	石狩東部広域水道事業団での上水道配水状況について
日 時	令和4年10月17日（月） 午後1時30分～

○施設の概要

千歳川浄水場は、千歳川新星地区右岸に建設されており、浄水処理方法は凝集沈澱急速ろ過方式を採用しています。

地震災害時は被害を最小限とどめ、浄水機能を維持するために、管理棟＋汚泥処理棟、薬品注入棟＋薬品沈澱池棟＋急速ろ過池棟、浄水池棟＋送水ポンプ棟の3棟に分棟した建設方式を採用しています。

また、千歳川浄水場を含む千歳川系全施設は 漁川浄水場からの遠隔操作が可能となっています。

なお、取水場は千歳川浄水場から1.2km先の上流にあり、沈砂池を経由させた原水を、取水ポンプによって浄水場へ圧送しています。

取水施設は監視カメラで常時監視できる機能となっています。

また、千歳川上流では、千歳さけます事業所で毎年3月から5月の間、ふ化放流事業が実施されるため、取水口に「稚魚流入防止スクリーン」を整備しています。

○浄水場の配水状況

千歳川は既存の利水者が多く、新たに水源を求めることが困難な状況でしたが、北海道開発局が計画を進めていた夕張シューパロダム建設事業に参画し、ダム開発により得られる水源と振り替えることによって、千歳川からの取水が可能となりました。千歳川系施設は、1日最大29,600m³の原水を取水しており、導水管を通して千歳市中心部から上流約5.2kmで取水し、その下流約1.2kmに位置する千歳川浄水場までポンプ圧送して浄水した後、受水団体の配水池まで布設延長約69kmの送水管によって水道用水を供給しています。

○視察を終えて

災害に強い施設とするため、個々の機能を分散しているほか、千歳川浄水場が事故などで使用不可能となった場合でも、漁川系施設からの水道供給が可能となっており、安心できる水道水の使用が可能なのことが確認できました。今後は施設や送水管の老朽化に対する維持管理費が発生するため、費用は水道料金に直結する問題であることから、計画的な管路等補修計画に基づき、継続した設備の維持に努めることが重要です。

視察先	千歳市（道央廃棄物処理組合焼却処理施設）
調査事項	道央廃棄物処理組合の焼却処理施設について
調査日時	令和4年10月17日（月） 午後3時～

○施設の概要

道央廃棄物処理組合が建設中の焼却施設は、令和6年4月からの稼働を目指し、千歳市根志越に建築中です。組合を構成する2市4町（千歳市、北広島市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町）は、現在それぞれの方法により焼却対象ごみを処理していますが、環境負荷の低減や経済的負担の縮減を目的として、新たに建設する焼却施設による共同処理に向け建設が進められています。

令和2年度から造成工事が行われており、建設工事費は約117億2,400万円で処理方式は全連続燃焼式ストーカ方式となっています。

○視察内容

建設の進行状況について説明があり、現在は配筋、コンクリート打設工事が行われていました。今後は冬期に向け、壁の建築作業が行われる見込みです。

○視察を終えて

ごみ処理問題は、各自治体でも重要な課題の一つであり、建設中の焼却処理施設は、問題解決に非常に重要な施設となると考えます。

完成予定の施設は、ごみ焼却時に発生する余熱を利用した発電機能も備えているなど、環境に配慮した施設となっています。

今後は焼却処理後の焼却灰の処理方法などの課題もありますが、計画どおり施設が完成し、稼働することを望みます。

今回視察にあたり、対応して頂きました石狩東部広域水道事業団、道央廃棄物処理組合の関係各位に感謝申し上げます、視察報告といたします。

以上、産業厚生常任委員会道内行政視察報告といたします。

（報告書文責 委員長 大竹 登）